ときめき

創刊号

彩の国いきがい大学春日部学園 22 期校友会

https://kasukabe22.jimdo.com/

長内会長挨拶

２２期校友会が発足して早や半年が経過します。この間の会員の皆さま方の行動と熱意に心より敬意と感謝の意をまずもって申し述べたいと思います。

校友会という器に魂を入れるのは主役である我々自分自身と受け止め船出しました。
特筆すべきは何と云ってもホームページの立ち上げでしょう、　見事にコミュニティ広場としてその機能を如何なく発揮しています。

又クラブ活動に複数加入している会員は８２名中５２名と６割を超えています。
これが班活動ひいては相互親睦の醸成に拍車をかけ相乗効果を創出していると、皮膚感覚で熱く実感しております。

肩の凝らない、自分のペースを守り淡々と、そこに生きがいを見いだせる２２期校友会であり続けたいと思っております。
佳き仲間とともに手を携えながら、フイールドを固めてウイングを広めましょう。　自分の為に。

「願い」　健康　そして　広げよう微笑みの輪。

校友会よりお知らせ

親睦的事業（バス旅行）

行 き 先 ： 妙義山

日　　時 ： 11 月 8 日（水）

金　　額 ： 8,500 円

締 切 日 ： 9 月 30 日（各班長まで）

日 程 表 配 布 ： 班長を通じて10月頃

総務部長挨拶

総務部を担当させていただいております、梅本です。
２２期学生自治会活動においては、運営・進行など総務的な業務は、小森さんの絶大なる支援のもとでしたが、卒業後の２２期校友会においては、結成から事業展開・班活動・クラブ活動・会議運営等、全て独自の道を進んでいくことになりました。
その渦中において、役割・任務を考えた場合、「親しい人間関係の構築」「自主的な運営」「敬愛される高齢者となれ」を常に根底に置くことが大切であると考えました。

① 校友会会員の名簿の整理
② 各種会議運営の管理(場所確保など)
③ 各班・クラブ活動の状況把握
④ 新規として社会活動へ参加の模索
⑤ 校友会独自の事業展開に対する予算化

など、何事にも積極的に取り組み・推進して参ります。
誰かが必ずカラオケで美空ひばりの「川の流れのように」が選曲され、知らず知らずのうちに皆で合唱になります。
今の心境としては、校友会がよどみなく、穏やかに、流れていきたいところですが、歴史ある春連協の既定路線の歩み方と、我々の 22 期校友会の自主路線の進み方が、岐路になりつつあるのではと思っています。
「自ら活動して他を動かすことができるのは水也」のごとく、まだ微力な水でありますが、野山・田畑を潤し、集合してくると大きな岩を動かすことができます。
これからの川の流れがどのようになるのか不透明ですが、皆様とともに健やかに、楽しく、円滑に流れるようにしたいものです。

広報部活動報告

校友会設立の準備会議において広報部長を引き受けることになり、広報の役割とは何か、何をすれば良いのかを考えてみました。

① 校友会の行事予定の連絡。
② 班やクラブ活動の報告。
③ 情報の伝達と共有。
④ 情報を迅速に、そして費用をかけずに伝える方法は・・・。

会報誌は記録として残すには良いが連絡手段は別途検討する必要があるのではと考えました。
これらを手っ取り早く解決するには、22 期独自のホームページを立ち上げたら良いのではないかと思い、顔合わせを兼ねた第 1 回広報部会を 1 月 19 日に開催し部員の了解を得ました。
それから協議会、理事会、設立総会にはかり了承を得ました。
3～4 月にホームページ作成のための勉強会を 4 回開催し、予定より早く 5 月 1 日にホームページを立ち上げることができました。
校友会の皆さんの協力（投稿）のおかげでホームページの運営はスムーズにいっています。
これからも皆様のご協力をお願いします。　　広報部　　新田

私　の　趣　味

「私と写真」

６班　小関 明彦

小学生の頃、カメラが欲しくて親にねだって買って貰った。今思うと、オモチャみたいなカメラだったがすごく嬉しかった。そのカメラで撮ったフィルムを現像に出し、数日後にプリントが出来上がってくるまでのワクワク感。その感覚が今、蘇った。

３年前､本格的に写真をやろうとカルチャーセンターの写真教室に入った。そして地域の写真倶楽部にも入部。写真の楽しさはもちろんだが、自分が感じ取ったものを相手に伝えることの難しさを知った。「これはうまく撮れた」と思ったものが、他の人には認められない悔しさ、もどかしさ。その悔しさをバネにいろいろなフォトコンテストに応募した。苦労して撮った一枚の写真と考え抜いてつけた写真のタイトル。それが認められ、入選した時の喜びはたまらない。

そして、多くの人たちに観てもらえる喜び。でも、写真を趣味にして何よりも良かったことは、いい仲間に出会えたこと。仲間づくりの大切さは、いきがい大学でも学んだ重要なことのひとつ。これからの目標はもちろん、県展や国展での入選、入賞。それからライフワークとして越谷の魅力ある街を撮り続け、何かの形で表したい。その第一歩として、市制６０周年記念事業の推進市民委員会の「記念誌・広報担当」として活動していくことが決まった。

原稿募集のご依頼

日頃は「広報部」活動に、ご支援ご協力をいただき有難うございます。この場をお借りして感謝申し上げます。次号は平成３０年３月発行を予定いたしております。つきましては、会員の皆様に原稿依頼する所存でございます。
詳細は下記の通りです。よろしくお願い申し上げます。

原稿募集内容

① 社会活動（地域・個人・ＮＰＯ）
② 私の趣味（俳句・短歌・川柳・絵画・写真・絵手紙・家庭菜園…）
③ 私の故郷（ふるさと紹介・思い出）

「謡」

9班　船川 美智男

学生時代に能楽を始め、長いブランクを経て再び能楽師に師事すること、早 5 年。能の題材は源義経・在原業平・光源氏・平敦盛などが多く、能は不遇な魂を成仏させる神技だと言う人もいます。世阿弥が室町時代に大成した能を、形を変えず現在まで継承しているのですから文化、環境の違う現在の私達が理解するのは困難なはずです。しかし、謡の中で主人公の心情がわかったと（錯覚かも・・）思えたその時私は時空を超え古人を訪ねる時でもあります。そこが能の魅力です。しかし、そのような時はめったになく、本当に奥が深くむずかしい習い事です。

手作り「模型飛行機」

4班　大沢 薫

少年時代、私はプラモデルの模型飛行機づくりに熱中していましたが、やがて、既製部品を組み立てるプラモデルでなく、最初から全てを自分の手で作成したいと思うようになってきました。

しかし、だんだんと他のことが忙しくなり、この想いは、いつしか薄らいでいってしまいました。

そして、年月が経ち、第二の人生を歩き始め、何かやり残したことはないかと考えたとき、プラモデルに代わるものを自分で制作したいという少年時代の想いが蘇ってきました。

そこで、充分ある時間を活かして、航空雑誌を見ながら、木片を削り、磨き、中をくり貫き、そこに電池とモーターを組込み可動するプロペラを取付け、塗装して、手作りの模型飛行機を完成させ、少年の頃の想いを実現することができました。因みに、今回制作した機種は「局地戦闘機・紫電改(しでんかい)」です。

私のふるさと

「ふるさと板柳町の今に思うこと」

４班　長内 正行

「あすなろ」、明日はヒノキになろうというヒバの木の別名で、青森県の県木です。ヒバは１５０年の風雪に耐え、成木を伐採して世の役に立つという意味です。

板柳町は津軽平野のど真ん中に位置しています。故郷を後にして半世紀以上、当時人口が３万人前後と記憶するが現在は１万３千人を下回り、昨年過疎化の町と国の認定を受けました。忸怩たる思いとカルチャーショックは禁じえません。自分に出来ることはないかと純粋に思う昨今です。

町では２０年前から「まるかじり条例」を制定し安心・安全なりんごづくりを目的とし、「りんごの里日本一」を達成すべく町民一丸となり取り組んでいるさなかです。

私はリンゴ農家の５男坊小さい頃より「１日りんご１個医者いらず」と言い聞かされ育った身。皆さんの健康づくりの一助と追憶を込めて。

我が心の原風景

２班　石川 晃

先日家内とふたりで、従弟が入所している埼玉県北部の施設を訪ねたついでに、生れ故郷の利根川を歩いた。川の流れはゆったりと、遠くに日光連山が霞んで見えた。

ここで小学校まで過ごし、春はレンゲの咲く土手をすべり、夏には浅瀬で水遊びに夢中だった。

昭和２４年のカスリーン台風で決壊した堤防は、今は拡幅工事できれいに修復されていた。

ゴルフや渓流釣りなどアウトドア好きの自分の原点は、間違いなくこの利根川にあると確信している。

私のふるさと

わが故郷、りんごだけじゃないよ！

５班　葛西 博行

◆津軽の黒石◆

歴史ある“こみせ”や伝統工芸の“こけし”などで知られ、古くから城下町として栄えてきた黒石。

長い冬が終わって、春の暖かさを感じ、夏の祭りで燃え上がって、秋に赤く実ったりんごにほっぺたを重ねる....そんな故郷に思いを馳せて、久しぶりに帰った私を“津軽の情感”が包んでくれる。

近年は、人口減少など心配な話題も出てくるけれど、故郷を愛し、守り、頑張る人たちが明日に向かっているから、 応援したい。「けっぱれ！（頑張れ）黒石！」

◆津軽のひと、他にもいませんかぁ～？◆

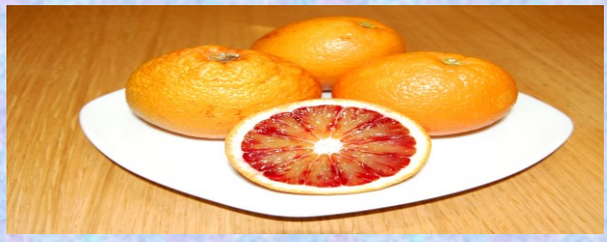
長内正行さんと小山笑子さんは津軽出身の仲間です。津軽人特有の恥ずかしがり屋のせいか、彼らと同郷であると分かったのは卒業後の４月でした。

今では、津軽の匂いがするような「あんずましい（心地よい）やさしさ」を感じます。そうだよね、津軽のお二人さん！

私のふるさと

１班　有田 英一

私のふるさとは阿蘇山、球磨川に挟まれた熊本県中部、天草につながる宇土半島南東岸に位置し、海岸地帯・田園地帯・丘陵地帯と多様な自然に恵まれた不知火町です。　由来は八朔（旧暦８月１日）ころの月のない深夜に現れる一点の漁火でも左右に細長く見えたり、無数に見えたり、消えたり、海上に多くの光が点在し、ゆらめいて見える千灯万火明滅離合という現象を呈します。　この現象は古くから知られていましたがその正体が不明のまま不知火といいならわされてきたそうです。　不知火が現れる海を不知火海（現在は八代海とよぶ）、そこに隣接する地域が不知火町です。



不知火町は漁業、稲作等の穀物、野菜栽培、果物栽培が盛んで、「デコポン」は熊本果実連の登録商標で全国に出荷されてます。

県民性の代表格とされているのが「肥後もっこす」とよばれる純粋で正義感が強く、一度決めたら梃子でも動かないほど頑固で妥協しない反骨の人が戦後しばらくは多かったそうですが、現在は少なくなっているようです。　平成２８年熊本大地震で大きな被害を受けましたが全国の皆様からの支援を受け、街並みもゆっくりではありますが復興に向け進んでおります。　熊本のシンボルである熊本城の石垣は特に大きな被害を受け修復費用３５４億円が見込まれ、瓦が落下した天守、櫓、塀の被害全容が分かっていない状態ですが全体修復完了まで２０年を要するとのことです。熊本城、街並みの復旧も「肥後もっこす」の気質で乗り越えることと思います。

「熊本には、よかとこが、いっぱい、あっとよ、是非、来なっせ」「待っとるばい」

社　会　活　動

「むかしの遊び」

２班　大屋 保子

今年６月２４日、幸松公民館主催の「むかし遊び」で、子供達と遊ぶボランティアの募集があり「ふれあい３０期」から１０名程の参加がありました。

当日、体育室では、羽根つき、縄跳び、竹馬で子供達と遊ぶチームがあり、賑やかな歓声が聞こえました。ロビーでは特に、囲碁将棋に人気が集まり、大人たちが本気でチビッ子と向き合っていました。ホールでは、本の読み聞かせ、紙芝居、コーラスなど、シルバーが日頃の練習の発表の場として子供たちを楽しませていました。

私達の担当で、昔遊びのお手玉、折り紙、紙相撲など、童心に帰り楽しませてもらいました。

お昼は、地元「婦人会」手作りのいなり寿司と豚汁を美味しく頂き、皆で楽しく元気な一日を過ごしました。

帰りは、お決まりの「ノミュニケーション」で反省会。今日も一日有意義に過ごせました。

ボランティアは世の為、人の為、多くは自分の為と私は思います。心地よい疲労感とかすかな達成感を体感しようと来年も参加するつもりです。やってみたい方、この指とまれ。

水彩画　10班　**増山　茂夫**

今年ふれあいキューブのギャラリーに展示した３点です

裏磐梯の湖沼　　２０１５年

新緑の奥入瀬渓流　２０１４年

那智の滝　　２００７年

俳　句

小さい頃から本が活字が大好きでした。
俳句歳時記を捲る度、新しい発見があり心が弾みます。
今も月例句会のたびに苦しんで作句しています。
掲載の二句は実体験を素直に詠みました。

大夕立（おおゆだち）空っぽの校庭跳ねまくる

地下道のはぐれコオロギ昼も鳴く

五班　柴田　美登里

初桜君と出合ひし学生街

青春を語る夕べや褄（ほた）の宿

四班　小幕　久子

自然界は四季折々　色々な表情で私達に語りかけてくれる。
日々の変化を五・七・五の十七の文字に込め表したいと
始めた小さな小さな自分の心の軌跡の俳句です。
平和な日々を願いつつ・・・

公開講座 ～「水から見る文明の興廃」　　講師：奥野　長晴　滋賀県立大学環境科学部元教授

＼ 第一回学習的事業 ／

22期相互が信頼し、慈しみ、さらなる人間関係を構築するとともに、社会貢献を目標として春日部学園 22 期校友会がスタートした時は、立春を過ぎていてもまだまだ寒い2月でした。

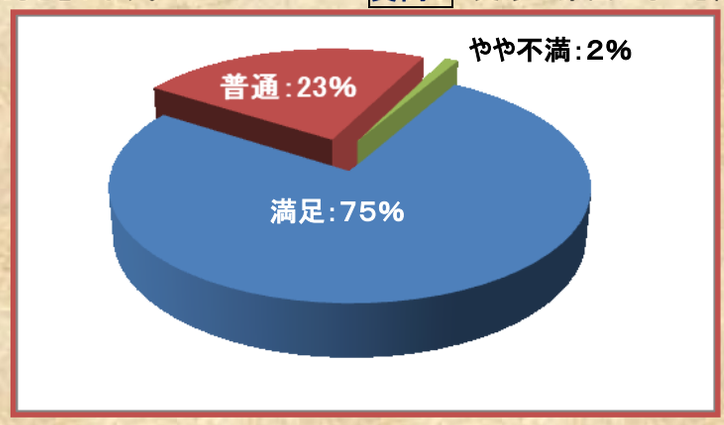
それから約5ヶ月が経ち、春日部学園 22 期校友会の学習的事業として7月 27 日（木曜日）13 時 30 分から春日部市民活動センター（ポポラ）4階第1会議室にて公開講座「**水から見る文明の興廃**」を開催しました。

公開講座には 73 名（校友会会員 52 名、一般参加者 21 名）が参加してくださいました。校友会の会員の当初申し込み人数は 62 名でしたが、事情で 10 名欠席、その一方、一般参加の方で当日4名参加があり、100 名の会議室がほぼ満席になりました。参加者数の上では成功といえると思います。また、一般参加者のなかに埼玉県庁環境部に所属する現役職員3名の方が、出張という形で、受講されたことも嬉しいことでした。

それでは公開講座は内容的にどうであったのか？

公開講座について3段階評価のアンケート（回収率約 72%）の結果は、満足が 75%　普通が 23%　やや不満が2%です。これからみると内容的にも成功といえると思います。

次に具体的にどのような点が良かったのかをアンケートに書かれた**外部参加者の感想**を通して公開講座を振り返ってみます。



① 私の興味のある自然環境水問題、温暖化問題などを興味深くきかせていただきました。ありがとうございました。実はこのほか都市のスプロール現象や街並み、都市計画、地震などにも関心があります。
22 期の方々の事前の勉強や講座の内容の理解度ぶりには感心いたしました。同期生として奥野先生といろいろ語り合える近藤さんが羨ましいです。また、このような機会がありましたら、よろしくお願いいたします。（男性）

② いきがい大学の中身、講師や講演はもちろん、生徒の方々が普段どういうふうに授業を受けているかが体験できました。仕事を引退してからもこういった学びの機会があり、積極的に参加されることは素晴らしい事だと思います。自分も時期がきたら。（男性）

③ 先生の環境破壊に対する講義内容の深さと皆さんの発表力の力強さに感心しました。（男性）

④ 素晴らしい資料がいっぱい集められ良かったです。わかりやすく素晴らしい講義でした。出席して良かったです。

⑤ 皆で勉強羨ましいです。久々に講義を受け、学生時代を思い出しました。（女性）

⑥ 久々に真剣に勉強したという気分です。とても考えさせられる事項でした。出来ることから始め、旬の野菜を食べたり、鶏肉を食べるようにしようかと思いました。植林の機会があったら、参加しようとも思いました。（女性）

⑦ 未来へのボランティア素敵な言葉だと思います。ささやかながら実行したいと思います。（女性）

⑧ 短時間ながら多方面資料（数値 data）の活用で理解が容易だった。（男性）

以上のように外部参加者は、22 期校友会活動の中でも班の発表を高く評価してくださっていることがわかります。

次に各班からの発表ににについて触れておきます。

各班の発表は下記の質問に対する回答または講義の感想です。

質問1　日本が地中海の古代都市のように滅亡しなかったのはなぜか？

質問2　ヨーロッパの諸都市が地中海の古代都市のように滅亡しなかったのはなぜか？

質問3　黄砂の原因になった森林伐採の今ひとつ別の理由は？

質問4　開発途上国の人口増加を防ぐ妙薬はなにか？

質問5　地球の寿命を延ばすために自分にできることは何か？

発表順はくじ引きで決めました。

① **6班**（鈴木洋子さん）
露地物の野菜や鶏肉をとるようにする。
電気の使用量を減らす意識をもつ。
アイドリングストップなどで炭酸ガスの排出を抑える。

② **1班**（有田さん）
地球環境がよくわかった。
日本でも水害が多く発生している。
水は大事である。富士山の水源が外国に買われている？水、ガス、電気の使用量を一人一人がよく考える。

③ **9班**（新田さん）
地中海の古代都市がなぜ滅亡したのか？
森林伐採、土地の劣化、そこから起因する気候変動の循環により滅亡した。問4については答えが出ない。教育ではないか。

④ **10 班** （真野さん）
問4の人口増加の抑制について、日本では人口減少が問題であるが、発展途上国は人口増加である。なぜか？答えが出ない。

⑤ **5班** （葛西さん）
森林伐採が水の循環を断って水不足を起こす。　人口増加が食糧不足を招く。
日本では美味しい水を飲めるが、今後ともきれいな水が使えるように日々の生活を考える。

新田照幸さん撮影

⑥ **4班** （大沢さん）
質問1～3については基本的には同じ気候（水）循環が関係している。
森林伐採による土地の劣化と気候変動である。
人口の抑制は教育である。
日常生活でエネルギー（ガス、電気）を使わないよう、食品も露地物を食べるよう気をつける。

⑦ **8班** （中田さん）
問4の人口増加の抑制への答えは教育である。
発展途上国の教育レベルを上げ、問題意識をもつようになることが大事である。

⑧ **3班** （梅本さん）
身近なところから考えると車でなく自転車に乗る。
戦争をしようとしている国については環境問題の観点からも阻止しなければならないと思う。
水の使い方について改めて実感した。

⑨ **7班** （斎藤さん）
森林伐採が地球を滅ぼす。
家庭菜園で野菜を作り消費することは、エネルギーの消費がなく環境を守り地球の未来に繋がっていると思う。

⑩ **2班** （石川晃さん）
インターネットでエフェソスのことを調べてみた。
4班の大沢さんと同感。
広島大学の研究開発で明らかになった地層に埋まっている植物の種から年代による土地利用形態の変化（楢のたね～森林、オオバコのたね～草原、小麦のたね～畑）判明が興味深かった。

各班の発表から

① 地球環境森林の保全からみた森林役割の重要性
② 地球環境にとっては家庭部門の温室効果ガス抑制が鍵である。
③ これには一人一人が環境問題へ関心を高め、実行することが重要である、そのことを未来へのボランティアと呼ぶ、などが理解されたと考えています。その一方、設問4への明確な答えは出ないということでした。設問4への奥野さんの回答は「人口増加抑制には教育はもちろんではあるが、てっとり早いのはテレビの普及、そのためには発展途上国への電気などのインフラの支援が必要である。」ということでした。

また、講義を通じて、豊富な水の存在や水環境から見ると、日本は恵まれた国である。水田が保水池の役割を果している。水田は食料生産に加えて水環境保全の役割を持っている。したがって、コメを食べることは日本農業を守り、ひいては日本の水環境の保全に結びつくことを知りました。

今回の学習的事業では映像とレクチャー、そして各班の設問への回答発表という形をとることで、単なる受講だけでない講座になり、そのことが公開講座に参加した方に強い印象を与えたと思います。
水環境問題は地球規模でありながら個人の日常生活に直結しているとの意識を喚起したこともこの講座の成果です。

22 期校友会が設立されたのは2月、5ヶ月後に初めての学習的事業を開催し、皆で集まる機会をもちました。このことが会員相互の人間関係を深める契機になったなら、うれしく思います。
またこの学習的事業を公開講座にすることで校友会会員以外一般の参加者は 21 名（約 30%）を数えました。今回の学習的事業は十分社会貢献を果たしたといえるのではないでしょうか？
校友会事業は皆様の参加があって初めて成立します。今回の学習的事業にたくさんの会員が参加くださいました。ご協力に心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

今秋 11 月８日（水）親睦的事業として日帰りバス旅行を、
来年3月には2回目の学習的事業を計画しています。
皆で 22 期校友会をさらに発展させましょう！

企画部副部長　松永　佳世子

編集後記

校友会の皆様のご協力のおかげで「ときめき」創刊号を発行することができました。ありがとうございます。次号は「校友会発足１年を振り返って」をテーマに発行を予定しております。

皆様のご協力をお願い致します。

広報部員

秋葉ちずる　小山笑子　葛西博行　塚谷サト
新田照幸　鈴木洋子　真野征典　山内日出夫

平成 29 年9月発行